

『時事直言』 No.629 2011年1月31日

時事直言ホームページ：<http://chokugen.com>

時事直言 携帯サイト：<http://mobile.chokugen.com>

FAX：03-3955-6466



時事評論家 増田俊男

経済刺激策の正しいトリック

昨年11月の米FOMC(連邦公開市場理事会)が本年6月末までの6,000億ドル(約49兆円)に及ぶ金融緩和策を発表してから本年1月後半までNYダウ主導でニッケイ平均も一本調子で上げた。

私は株式投資に関して「1月の高値で売って2、3月の下げで買えば4月から本格的上昇の波に乗れる」と述べてきた。

金融緩和という経済刺激策の本質を分かり易く述べるので私の楽観論への理解を深めてもらいたい。

ある日、中国人の旅行者がNYにあるDebt(借金)という名のホテルにやってきた。手の切れるようなピン札100ドルをカウンターに置いてオーナー・マネージャーに、今夜100ドルで泊まりたいので階上の部屋を見せてくれと言った。そこでマネージャーは係に最上階5階の部屋5室を時間を掛けて丁寧に見せるように言いつけ、自分は裏口から向かい通りの肉屋に飛び込み3カ月も滞納していた肉代金100ドルを払った。肉屋は即座に自転車に乗って数ブロック先の精肉会社に長い間借りていた100ドルを返しに行った。精肉会社の社長は広告会社に電話して滞納している100ドルの広告代を取りに来させた。広告会社の社長は自家用車でDebtホテルに駆けつけ催促されていたアーケードのディスプレイ広告スペース代100ドルを払った。

そこへ中国人の客が5階から下りてきて、どの部屋も気に入らないと言ってマネージャーに預けていた100ドルを受け取りグッド・バイと言って帰って行った。泊まらず仕舞いの中国人客がホテルの受付カウンターに100ドルを置いてから同じ100ドルを持って帰る間にホテルと肉屋と精肉会社と広告会社に何が起きたのだろうか。その通り！全員借金が無くなったのである。

私が名付けた「オバマ・マジック」(経済刺激策)の「種明かし」である。

借金の無くなった彼ら(アメリカ経済)が楽観的になるのは当然のこと。

だから私、増田のアメリカ経済楽観論は正しいのである。

「ここ一番！」や「小冊子」を読んでどんどん質問してください。

正しい答えを即答します。

増田俊男の「時事直言」ご協力金の御礼！

この度は全国の皆様から多大なご協力を賜り誠にありがとうございました。ご協力金の御振込の期限を1月末にさせていただきますのでよろしくお願い致します。すでにご協力いただいた皆様同様増田より現在発売中の「新春大講演」CD/テープを贈呈させていただきます。お問合せは増田俊男事務所(TEL:03-3955-6686)まで

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前に株式会社増田俊男事務所(TEL03-3955-6686)までお知らせ下さい。